

市民と市長との対話集会会議録【要旨】

※生成 AI による要約を行なっています。

令和 6 年12 月 18 日 中津川シデコブシの会

会長

本日の集会は 1 時間ということで、皆さんの意見も積極的に取り入れたいと考えている。実りある対話の場にしたい。

市長

本日 30 回目の開催で、テーマはシデコブシの自生地保護ということで、より良くしていくためにどうしていくか、そのような話ができればいい。

会長

会は平成元年に発足し、最大 270 人の会員がいたが、現在は 90 人余りに減少。主な活動は鑑賞会や自生地の環境整備、苗作り、地域イベントでの PR。しかし、高齢化と資金不足、新規会員の獲得が課題。

また、地域の理解度にばらつきがあるほか、以前、森林環境税を活用して制作したパンフレットの在庫がなくなっているが、会で制作・印刷する資金的な余裕がない。

シデコブシの自生地が縮小してきていると思われるので、一度自生地の再調査ができたかと考えている。

加えて、自生地の天然記念物指定地は現在 5 か所しかないため、さらなる指定地化、またはもう少し管理をしていただきたい。

市長

会員の高齢化や新規会員の勧誘は、市内どの会でも共通の悩み。秋を中心に市内ではたくさんのイベントが開催されるが、PR する機会などはあるのか。

参加者

春の鑑賞会には、現地案内所で勧誘もするが、入ろうという方は少ないのが現実。現在の会員も仕事や他の活動もあり、PR 不足もある。

市長

他の団体では、いろんなところをうまく巻き込んで活動している団体がある。学校を巻き込み、地域学習として鑑賞などをしてもらい、そこに皆さんにも関わってもらうのも 1 つ。

参加者

これまで学校や教育委員会へも働きかけを行ってきたが、開花のタイミングが学期の変わり目ということもあり、鑑賞してもらうまでには至っていない。

豊かな群生地を都会の皆さんに見てもらえるよう、市からの発信にも力を入れてもらいたい。

参加者

全く手つかずの指定地もあり、環境整備をしてくれるのか、地域にお任せなのか。地域にお任せでもいいが、指導は必要。

市長

広報紙などの紙のPRでは、発行と開花のタイミングが合わないので、SNSなどを活用し、会の皆さんから情報をいただき、市から発信することはできる。

参加者

地域住民も植物には詳しくないため、市で専門的な人をお願いするなど、維持管理の体制を検討してもらいたい。

会長

現地調査の実施、シデコブシの管理に関する行政窓口の一本化、観光ルートなどでのPR、小・中学校での教育活動、希少植物マップの作成を検討いただきたい。

市長

紙媒体も必要としながら、スマホなどデジタルでの広報の仕方も検討が必要。自生地調査については、一度現状を把握したいと思う。

本日はありがとうございました。